

あかしSDGs後期戦略計画の策定に向けた取組について

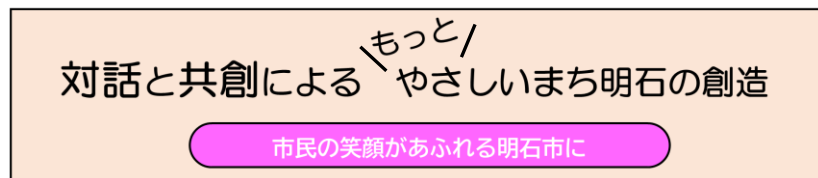
現在、策定を進めているあかしSDGs後期戦略計画の素案と取組経過、今後の予定について報告します。

1 あかしSDGs後期戦略計画（素案）【資料1】

(1) 概要

- ① 計画期間 2026年度～2030年度（5年間）
- ② 数値目標 住みやすいと思う人の割合 100% 総人口 30万人
- ③ まちづくり戦略

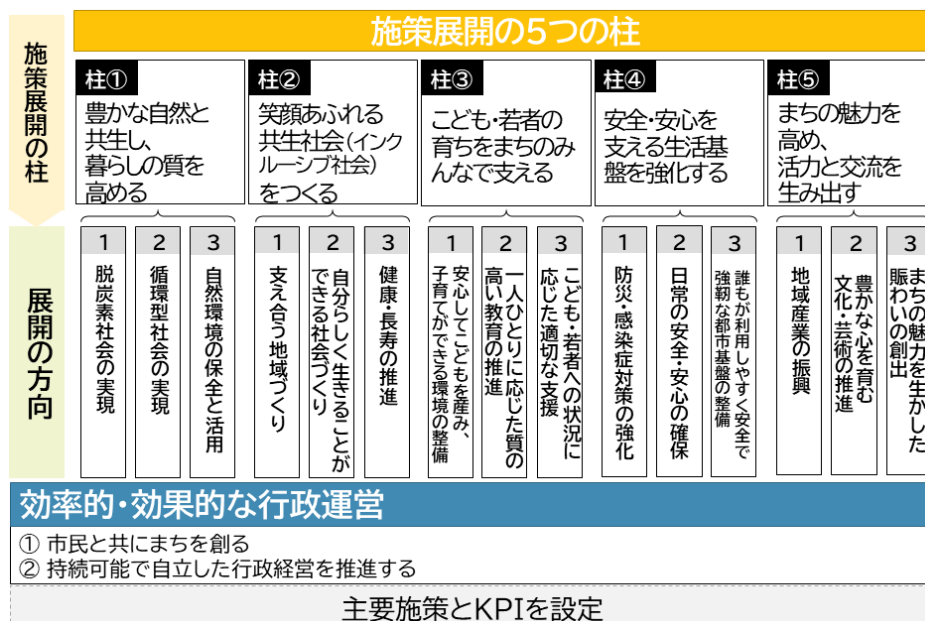
あかしSDGs推進計画（第6次長期総合計画）で掲げる目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりを効果的に推進するため、新たに後期戦略計画において重点化する戦略を示します。



すべての人が安心して暮らし続け、市民一人ひとりが心豊かに幸せ（ウェルビーイング）を実感できる「もっと/やさしいまち明石の創造」に取り組むことをまちづくりの戦略として設定し、以下の施策を重点的に展開していきます。

重点施策	① 「こどもを核としたまちづくり」、「誰にもやさしいまちづくり」の深化
	② 対話と共創のまちづくりの推進
	③ 人口を維持するための経済・社会・環境の三側面からの戦略の推進

④ 施策展開の方針



2 第2回あかしSDGs推進審議会

①開催日時	2025年8月26日（火）15時～17時
②場 所	市役所議会棟大会議室
③議 事	・あかしSDGs後期戦略計画素案について
④主な意見	【まちづくり戦略】 ・まちづくり戦略は、前期戦略計画における反省と現在、取り組んでいるまちづくりを踏まえた内容となっている。 ・明石市は、限られた財源の中で、福祉をはじめ素晴らしい成果をあげている。これからもやさしいまちづくりを更に推進していきたいという考えが示されており、さらなる魅力なるまちとなることを期待したい。 ・明石市では人口も増加し続け、子育てで全国的にも有名になって、まちづくりの目標を達成されていたと感じているが、その上で、達成したその次の展開をどうしていくのか、現実を踏まえた具体的な施策を分かりやすく表現していく必要がある。 ・まちづくり戦略が抽象的な表現であり、どのようにまちづくりを展開していきたいのか具体的に示すべきではないか。 ・長期総合計画で位置づけているSDGsや自治基本条例に定める「情報共有」、「市民参画」、「協働のまちづくり」との整合性が図れているのか。 ・「まちづくり戦略」を「後期戦略計画における重点施策」と置き換えることで、分かりやすくなるのではないか。 ・「人口を維持するための取組」とあるが、将来的に人口減少を迎えることは明らかであり、維持を目的としたまちづくりではなく、人口減少を踏まえたまちづくりを推進すべきではないか。 ・人口については、厳しい現実も記載した上で、それを踏まえた具体的な対応策を記載するべきである。 【施策展開の方向】 ・温室効果ガス排出量のKPIについて、実績値の把握が遅れてしまうという理由から、新たなKPIを設定したいという意向は理解できる。新たなKPIは市が取組をリードしていくという点で代替案として良いのではないか。 ・新たなKPIとして、脱炭素経営パワーアップ制度の優良事業者の表彰者数を設定するには、表彰に関する基準が決まり、その内容を確認した上で審議会として判断する。 ・ごみの排出量のKPIについて、家庭系ごみと事業系ごみを分けて表記が難しい点については、市民からするとごみ減量の成果が見えづらい。 ・明石市には、全国に誇るべきインクルーシブ条例やジェンダー平等条例が制定されていることから、計画上にきちんとこうした条例に基づいて施策を展開していくことを明記すべきではないか。 ・「一人ひとりに応じた質の高い教育の推進」について、SDGsのゴール4は、インクルーシブで質の高い教育となっているので、インクルーシブの要素を追加できないか。 ・インクルーシブ教育に関する目標を定めてはどうか。

- ・明石市は、市役所や新ごみ処理施設に加えて、旧市立図書館跡地や卸売市場、スマートインターチェンジなど多くの財源を必要とする事業に取り組もうとされている。限られた財源の中で、5年先、10年先を見据えた財政運営をお願いしたい。

【その他】

- ・前期戦略計画におけるK P I の達成状況について、当初値から改善できていない項目を△ではなく、×と記載すべきではないか。
- ・限られた時間の中で、議論を進めていく必要があることから、みんなの意見を吸い取っていただく方法を検討してもらいたい。

3 取組経過

(1) タウンミーティング 【参考資料①】タウンミーティング実施報告

①内 容	まちづくり市民意識調査を送付した市民を対象に、明石のまちの現状や課題について情報提供し、「これからの明石がこうなったらいいな」をテーマとして、市民意識調査では回答しきれなかった思いやアイデアについて対話しました。
②日 時	2025 年 6 月 26 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分
③参 加 者	18 名（20 歳代：1 名、30 歳代：2 名、40 歳代：2 名、50 歳代：5 名、60 歳代：4 名、70 歳代：4 名）
④主な意見	【これからの明石がもっと笑顔があふれるまちになるためには？】 ○もう一人産みたいと思えるまちに！ ・母親の健康推進と父親の育児への参加機会の創出。助産院や小児科の増設。 ○明石に住み続けたいと思えるまちに！ ・国の高校教育無償化を踏まえた市内の高等学校等における魅力の向上。 ・高齢者にとって住みやすいと思えるまち（買い物や福祉、医療が市内で完結）。 ○明石に帰って来たくなるまちに！ ・子育て中の方や若い世代のニーズに応じた働く場所の確保。 ・子育て支援施策の継続とよりきめ細やかな取組の推進。 ○また訪れたいくなるまちに！ ・市内を周遊するイベントの開催や明石公園・大蔵海岸など自然を生かした魅力の発信、宿泊施設の誘致など。 ○グローバルな社会を目指して！ ・外国人観光客の受入体制の強化、ホームステイによる留学生の受入や日本語教室の充実など。 ○災害時に助け合うことができるまち！ ・いろんな世代が交流・意見交換ができる場、新旧住民による交流の創出（地域の祭りやイベントへの気軽な参加）など。 ○こどもが意見を言えて具現化できるまち！ ・すべてのこどもに意見表明の機会が与えられ、様々な分野でこどもの声を反映。

(2) ワークショップ 【参考資料②】ワークショップ実施報告

①内 容	一般市民を対象に、明石のまちの現状や課題について情報提供し、後期戦略計画の骨子で示す施策展開の柱ごとに、市に期待する取組について対話しました。
②日 時	2025 年 7 月 12 日（土）14 時～16 時
③参 加 者	26 名（10 歳代：2 名、20 歳代：1 名、30 歳代：3 名、40 歳代：1 名、50 歳代：3 名、60 歳代：6 名、70 歳代：10 名）
④主な意見	【まちづくり戦略】 ・「対話と共創によるやさしいまちづくり」をさらに推進。全国に広げてほしい。 ・少子化に歯止めをかけ、出生率の向上のための子育て支援の更なる拡充を。 ・受益者負担も考慮して本当に困った人に適切な支援を届ける。 ・自然と生活が一体となった暮らしができるまちに。 ・高齢者や障害者、こどもなど、世代間や地域を超えたつながりを持てるまちに。 ・まちの魅力を生かしたまちづくりの展開を。 【柱 1 豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める】 ・自然教育に力を入れ、自然に触れるイベントの開催や市民リーダーを養成。 ・ごみ減少の取組成果としてポイントの付与（エコバックやエコボトルと交換） 【柱 2 笑顔あふれる共生社会をつくる】 ・自治会の加入率低下を受けて、地域におけるまちづくりの在り方の検討 ・多様性を推進するため、大人も含めたインクルーシブ教育の推進。 ・障害のある人も活躍できる農作物を使った青空カフェ 【柱 3 こどもの育ちをまちのみんなで支える】 ・こどもが安心して過ごせる、学べる、話せる居場所を増やす。 ・20 歳までを対象とした給付型奨学金制度の充実。 ・ファミリーサポート制度を見直し、協力者が参加しやすい環境整備。 【柱 4 安全・安心を支える生活基盤を強化する】 ・民間企業や地域と連携した多様な視点での備蓄物資の確保。 ・高齢者が安心して歩行できる空間を整備し、認知症予防や健康増進につなげる。 ・高架下の空間を生かして、遊び場や憩いの場の整備。 【柱 5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す】 ・海をキーワードに、漁業、魚の棚、大蔵海岸を結びつける産業の創出。 ・産業や漁業、農業などの職業体験を通じた担い手の確保。 ・女性活躍に関する取組の推進（大学までの経済的支援、非正規雇用の処遇改善など） 【効率的・効果的な行政運営】 ・自分の考えや行動、意見がまちづくりに反映され、自分が貢献できたと思える仕組みづくり

(3) これまで市に寄せられたご意見

①提 出 先	オンラインフォーム：8件 メール：2件
②主な意見	
1) どんなまちに住みたいと思いますか？ ・豊かな自然を守るまち ・図書館や公園が豊かにあるところ ・高齢者になっても住みやすいまち ・安全・安心をベースとして、コンパクトなまち ・対話と共創の推進により市民の声が届きやすいまち	
2) ここ数年で良くなったところ ・地域での交流の機会が増えた ・転入してきたが、出産・育児に対するサポートが手厚く感じる。 ・利便性がある場所に図書館があり、またイベントも多く魅力がある。 ・昔よりゴミが少なくなっていると感じる。 など ・タウンミーティングやワークショップなど、市民との対話の取組は大変良い。	
3) 今後さらに力を入れていく必要があるところは？ ・ごみの分別、ごみ資源化を徹底すること。 ・景観の面からも田畑やため池などの自然環境を保全する必要がある。 ・大久保北部の希少な森を未来まで残してほしい。 ・障害者が孤立しないような施策を進める。 ・高齢者や歩行器具を使用している人が安心して利用できる道路環境の整備 ・公園と水遊びできる場所をもっと増やしてほしい。 ・こどもの交通安全対策の充実。横断歩道の新設や高校生の交通マナーの指導。 ・市内の農水産業をPRするためのファーマーズマーケットの開催。 ・本のまちビジョンに基づく、具体的で実効性のある取組の推進 など	

4 今後の予定

	市民参画等	市議会
2025 年 9 月		☐ 総務常任委員会 ・後期戦略計画（素案） ☐ 議会各会派への意見聴取（9/3～10/17）
2025 年 10 月	☐ パブリックコメント（第 1 弾） （10/1～10/31） ・市内各団体への案内	
2025 年 11 月	◆第 3 回審議会 ・後期戦略計画（案）	
2025 年 12 月		☐ 総務常任委員会 ・後期戦略計画（案）
2026 年 1 月～ 2 月	☐ パブリックコメント（第 2 弾）	
2026 年 3 月	☐ 後期戦略計画策定、公表	☐ 総務常任委員会 ・後期戦略計画（最終案）